

岡部研究プロジェクト「研究論文概要集」(2004年度秋学期) について

岡部研究プロジェクトでは、1998年度春学期以降、参加メンバーが学期中に執筆したすべての研究論文の「概要」を学期毎に一冊にとりまとめて刊行しています。本書は、2004年度春学期のものであり、このシリーズの第12号に該当します。

今学期の研究テーマは、研究プロジェクト1「金融研究：情報化の進展と金融業」、研究プロジェクト2「日本経済研究：情報技術革新と日本経済」の二つであり、ともに情報通信技術革新のインパクトを広範に検討することを中心課題としました。今回の概要集は、第3号以降の刊行物と同様、二つの特徴があります。一つは、ここに収録されている論文要旨は、すべて研究報告会議において報告され（今回は2005年1月15～16日に湘南国際村で開催）、そこでの討議を踏まえて改訂されたものとなっていることです。もう一つは、この冊子の刊行が湘南藤沢学会の正式刊行物として発行されたことです。

本書を刊行する理由は二つあります。第1に、各研究の成果の要点を記録しておくこと自体に意味があることです。第2には、研究テーマとして多様な視点があることを示すことによって、今後の研究の糸口を見つけるヒントになることが期待されるからです。なお、個々の論文に対する質問等は、直接執筆者に対して行ってください（電子メールアドレスは各人の名前のあとの記号@sfc.keio.ac.jpです）。また、過去の「概要」集の目次（履修者の研究テーマ一覧）は岡部研究プロジェクトのウェブサイトに掲載してあります（アドレスは下記）。

なお、これらのうち最優秀と認められたもの（各研究プロジェクト1編、計2編）は、従来どおり、その論文全体が単独刊行物として湘南藤沢学会より刊行される予定です。従来のそうした岡部研究プロジェクト優秀論文は、それぞれすでに公刊されているほか、そのすべてがインターネット上でも公開されており、論文全体を簡単にダウンロードすることもできます。

2005年1月

総合政策学部

岡部 光明

<http://web.sfc.keio.ac.jp/okabe/>

目 次

研究会 1

市場型間接金融の機能と主力商品についての分析（光安孝将）	1
不動産における証券化の流れ（永川朋宏）	2
メインバンク再考：メインバンクによるガバナンス機能の統計分析（藤井 恵）	3
銀行と消費者金融会社の比較分析（遠藤泰光）	4
地域企業再生ファンドの現状と課題：事例研究から（岸本庄史）	5
資産担保CPの問題と解決：売掛債権を中心に（米谷 曜）	6
証券化に関する理論分析（藤原史義）	7
環境の変化と銀行経営戦略（大川 慶）	8
ユーロ：6年間の実績と拡大の可能性（宇佐美奈穂）	9
コーポレート・ガバナンスの日米比較：機関投資家の意義（大澤康之）	10
保険と金融の融合-そして発展へ-（小林 龍一良）	11
企業のプロジェクト投資に関する理論分析：リアルオプションの視点から（関 晋也）	12

研究会 2

ベンチャー企業の成功要因分析--実務・経営学の視点から--（赤野滋友）	13
市場統合性の研究：牛肉の消費パターンと価格の地域間連動について（遠藤倫生）	14
地域別にみた社会資本整備の評価--パネルデータを用いた実証分析--（杉山貴昭）	15
企業倫理の経済学的視座（嵐 理恵子）	16
分権的市場の効率性に関するモデル分析：農業・ベンチャーキャピタル市場を対象に（千野剛司）	17

初等中等教育の問題点解決方法とその経済学的評価：コミュニティスクール ¹ の理論的妥当性（栗本雅也）	- 18
金融市場からみた複雑系経済学（中谷悠輝）	- 19
道路混雑税導入の可能性：京都議定書発効にあたって（村上淳也）	- 20
銀行業態別にみた国債保有行動の現状（永井裕二）	- 21